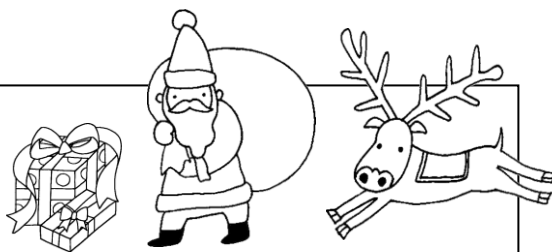


昌賢だより



第19号(2012.12.1)

発行：群馬医療福祉大学図書館
群馬医療福祉大学学生図書委員会

— 巻頭言 —



図書館に行こう！

リハビリテーション学部長 栗原卓也

学生諸君、君たちは図書館に行ったことはありますか？

もちろん、入ったことがないという学生は1人もいないと思います。しかしほとんどの学生が、勉強机としての活用、つまり自宅に帰って1人では勉強できないので、図書館に居残って勉強の場所として使うということではないでしょうか。

もちろんそれも結構。しかし、それではもったいないのです。

図書館とは、情報の宝庫。その図書館に入って、宝の一部を見る習慣をつけていただきたい。具体的には、図書館にある月刊または隔月刊の専門雑誌を手にとって中を見る。興味のある内容があれば、5分、10分でよいので、その論文を読む。例えば、看護学部ならばエクスパートナース、臨床看護、リハビリテーション学部ならば CLINICAL REHABILITATION などの雑誌を図書館に行くたびに手に取ってみる、そういう習慣を身につけてほしいのです。

専門雑誌は、有資格者だけが読む雑誌では

ありません。現場の有資格者に役に立つ内容、困っているところに手が届く内容が満載されています。近未来の有資格者である学生が読むことは、今現場で必要な最新の情報を、学校に居ながらにして入手できることとなります。1～4年後の自分の姿をそこに見出すことができるのです。

まだわからない、もう少し勉強してから、などと遠慮はしないこと。わからないことがあれば、教員に質問してみましょう。毎日5分から10分、近未来の皆さんのいる医療、介護の現場を想像して見てください。将来の皆さんの姿が、そこにあるのです。楽しみになりませんか？図書館でやっている試験勉強に、一層身が入ると思います。

図書館に行こう！そして専門雑誌を手にとってみよう。その中に近未来のあなたがいます。それだけではありません。が、紙数も尽きましたので、それ以外のお得な情報は、またの機会にお伝えします。

図書館を存分に活用してください。





【特集】前橋フラガ分館



【所蔵資料】

蔵書数 : 1,300冊
 雑誌タイトル数 : 20誌(和) / 8誌(洋)
 契約電子資料 : 5種(3キャンパス共用)

和雑誌			
1	理学療法ジャーナル	11	臨床作業療法
2	作業療法	12	リハビリネース(含増刊)
3	理学療法学	13	看護教育
4	総合リハビリテーション	14	作業療法ジャーナル
5	リハビリテーション医学(含SUPPLE)	15	理学療法
6	行動療法研究	16	リハビリテーション スポーツ
7	臨床スポーツ医学(含臨増)	17	リハビリテーション研究
8	MEDICAL REHABILITATION(含増刊)	18	地域リハビリテーション
9	CLINICAL REHABILITATION	19	日経サイエンス
10	運動療法と物理療法	20	季刊 発達 (別冊含む)

洋雑誌	
1	American Journal of Occupational Therapy
2	American Journal of Physical Medicine & Rehabilitation
3	Archives of Physical Medicine and Rehabilitation
4	British Journal of Occupational Therapy
5	Disability and Rehabilitation
6	Physiotherapy
7	Physical Therapy
8	Physiotherapy Theory & Practice

契約電子資料 (共用)	
1	CiNii (サイニイ) 【機関定額制】
2	ブリタニカ・オンライン・ジャパン 【リファラ認証可能】
3	MAGAZINEPLUS (マガジンプラス) 【学内のみ/同時アクセス数:1】
4	メディカル・オンライン 【学内のみ】
5	最新看護索引Web 【学内のみ】 (日本看護学会論文集:電子版)



ひろ～い閲覧スペース♪

閲覧席 : 84席
窓際キャレル : 8席
館内PC : 6台

今年度から学部化した元気21キャンパス。

図書館も専門学校図書室から前橋プラザ分館に名称変更してスタートしました。

前橋プラザ分館の特徴は、なんといっても閲覧スペースの広さ！

同じ座席数でも、前橋キャンパスの2倍以上！とスペースの取り方がとっても贅沢です☆

専門学校生の先輩たちと学部の1年生は仲良くしているのかな？と尋ねてみたら、

同じ分野で学んでいるので意外に仲が良く、定期試験の傾向や試験対策を訊いてみたり、
国試対策の相談などもしているようでした。



----------*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*

— 先生からのお勧め本 —

元氣 21 キャンパスの先生方にお薦めの本や読書観等を教えていただきました。

----------*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*

推薦者：梅山文秀先生

私は「薦められて」本を読むということをはほとんどしません。なぜなら、かつてそのようにして読み始めた本で最後まで読み通したものがほとんどなかったからです。そんな私がこのコーナーに投稿するのもおかしな話ではありますが、「お薦め」ということではなく、「紹介」という形で1冊の児童書をあげることにします。

書名 おじいちゃんの口笛
著者名 ウルフ・スタルク(文)
アンナ・ヘグルンド(絵)
菱木晃子(訳)
発行所 ほるぷ出版

1992年にスウェーデンで出版されて以来、国の内外で注目を集め、多くのスウェーデン人に愛されているとのこと。日本では1995年に出版され、以後7年間で15刷まで発行されました。わずか48ページの短い作品であり、物語はほのぼのと流れてゆくのですが、所々にちりばめられたことばのほのかな香りと登場人物たちの交流とを伏線として次第に心が揺さぶられ、知らず知らずのうちに目頭を熱くすることとなるでしょう。口笛とともに、凧は今日も優しい風をうけて軽やかに舞っているのかもしれない。

----------*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*

— 『7つの習慣－成功には原則があった！』 —

推薦者：三浦雅文先生

理学療法士は理学療法、あるいは医学の勉強をしていれば成長できるわけではない。知識はあくまでもツールであるから、そのツールを使う者の能力によって、有益となるか無益となるかが分かれる。例えば馬の耳に念仏となるかどうかである。

本書はタイトルからは、よく見かけるチープなビジネススキルアップ本のような印象を受けるかもしれないが、中身は本物である。人はどんな職業であろうとどんな人生を送っていようと、ステージアップして至高体験を目指すものである。本書はそのために必要なパラダイムシフトのためのヒントを教えてくれる。主体性を持つ事の意

味、時間管理の概念、win-win のルールなど、自分がレベルアップするために必要な事柄を再認識させてくれる。再認識である事がポイントである。7つの習慣のほとんどは既に知っている事ばかりだ。それらが大事な事であることはたいていの人が知っている。ならばそれをすればいい。そのように本書は再認識を促し、意識化させる事で7つの習慣を行動につなげていくように促す。この本を読んで目からウロコという言葉を感じとして持つ事ができれば、きっとそれがパラダイムシフトのワンステップを踏み出した事になるだろう。

----------*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*



— 『いつかは行きたい 一生に一度だけの旅 BEST 500 コンパクト版』 —

推薦者：小島俊文先生

表装を飾る題字と美しい写真に惹かれ、この本を手を取った。とにかくこの本の見せどころは、掲載されているたくさんの美しい写真と、軽快でありながら読みごたえのある解説である。タイ西海岸—アンダマン海に浮かぶロングテイルボート。真っ白の砂と、沖合に向かって青が深まっていく透明感あふれる海の色。オーストラリア—ボラデイル山周辺。アボリジニが透視画法を使って描いた白いカンガルーの岩絵の美しさ。ニュージーランド—ミルフォード・トラック。マッキンノン峠から眼下に広がるクリントン渓谷をおおう雲海の壮大さ。もう一生いけないかもしれない場所だからなのか、なぜかとても心が引かれる。この

本は、移動手段や旅のタイプ別に章が構成されている。水上の旅、ドライブの旅、鉄道の旅、徒歩の旅と見応え充分である。さらに文化に親しむ旅、美食の旅、スポーツの旅、空の旅、歴史を味わう旅と分かれており、読者たちの趣味や嗜好に合わせた工夫がなされている。見ているだけで、行った気分になれるであろう。だが、見ているだけでは飽き足らず、絶対行きたいとも思はずである。時間は作ろうと思わなければできない。お金は多少なくても何とかなる。要は自分がどれだけ強く行こうと思うかである。行けば必ず得られるものはある。特に「若いうちには旅をさせろ」である。まずはこの本をぜひ手に取ってもらいたい。



— 『海馬 — 脳は疲れない —』 —

推薦者：北爪浩美先生

これは、東京大学・大学院薬学系研究科・准教授の池谷裕二とコピーライターの糸井重里の脳と記憶に関する対談が本になったものです。とてもわかりやすく、そしてとても楽しく、さらに人間というものが大好きになるような内容で脳の不思議に迫っています。

専門職を目指す学生の皆さんは、自分に「センスが無いな～」と悩んだことはありませんか？ 病院や施設に実習に伺った時にとっても「センス」の良い諸先輩方を前に、見習いたいけど自分には無理・・・なんて考えたことが誰にでもあるのではないのでしょうか？そんなつかみどころの無いような「センス」も、実は「記憶」との関係がとても深いこと等が二

人の対談から教えられ、生きていく勇気が沸きます。脳とコミュニケーション、より良く生きるためのヒント満載の本書を読んでいると、なんとなく「にんまり」してきてしまいます。

脳科学ということばがごく一般的になり、「海馬」もみんなが知っている単語ですが、その機能を理解するのはとても難しいと思います。そんな「脳」について愛情をもって理解したい時のお薦め本です。





— 本 と 私 —

元気 21 キャンパス(リハビリテーション学部)の学生の皆さんに
日ごろ読んでいる本やお薦めの本、読書観等をそれぞれ教えていただきました。



— 本 と の 出 会 い —

作業療法専攻1年：青柳若奈

記憶がある中での私の本との出会いは、3歳頃に祖母に買ってもらったものである。たくさんの動物が出てくる物語で、タイトルは『いないいないばあ』という絵本である。正直言ってもらった時のことを鮮明に覚えている訳ではないが、とてもおもしろかったのを覚えている。幼稚園の頃には、ほとんど毎日図書室で本を何冊か借りて家で読んでさらに次の日にはまた借りるということを繰り返していた。小学校に上がると本を借りる頻度は下がったが、母に買ってもらった本を読んでいた。このころから図書室で借りるのではなく自分で買って読み、集めることへと変わっていった。だが、中学校ではあまり本を読ま

なくなり買うことも少なくなった。だんだんと読書から離れていくのかと感じた時もあった。

しかし、高校の2年後半の時興味のあったドラマがされてその原作が読みたいと思い、またその頃から本を読むことに夢中になり始めた。さらにこんな効果もあった。それは読書をする事で文章力が身に付き、文を書くことが楽しくなったのである。それからは、積極的に本を読むようになり今でも時間が空いている時は本を買って読むようにしており、自分でも読書をしたと思うようになった。これからもどんどん本を読んでいきたいと思う。



— 『光とともに・・・』の紹介文 —

理学療法専攻1年：宮尾江里子

『光とともに・・・』は、東家の長男として生まれた光が自閉症であると判明してから、その子が、保育園、小学校の特別支援教室や、中学校の特別支援教室へと進学していく中で生じる様々な問題を家族の努力や協力、自閉症を理解して光を支えてくれる人たちの存在や手助けで乗り越えて、ゆっくりだけど確実に成長していく光の様子が描かれています。

これは作者の次男の自閉症の同級生のエピソードが執筆のきっかけとなっており、その子の家族のストーリーも話の参考となっているため、自閉症について分かりやすい説明や接し方についてなども載っていて一人でも多くの人たちに自閉症について知ってほしいという思いで書かれているお話です。





— ある本との出会い —

作業療法専攻1年：滝沢真紀

私は中学2、3年生まであまり本が好きではありませんでした。しかし、ある本と出会い、読書の価値観が変わり、本を読むことは楽しいと感じました。その本とは、東野圭吾さんが書いた『流星の絆』です。『流星の絆』はテレビドラマでやると聞いて興味本位で読んでみました。すると、面白くて、すらすら読めて寝るのを惜しんで、ずっと読んでいました。こんなことは今までなくて自分でびっくりしました。そこから東野圭吾さんの書いた本をたくさん読みました。読書にはまり、東野さんの作品だけでなく、違う人の本も読んでみようと思い、色々な本を読みました。その中で私は、有川浩さん、重松清さんの作品が大

好きです。特に、重松さんの『きみの友だち』、『青い鳥』はすごく感動しました。また有川さんの『植物図鑑』や『図書館戦争』シリーズは大好きで何度も読みました。

私は本を読むことによって、集中力が長続きするようになり、読書をする以前より読解力や文章力がついたと思います。よく、読書は想像力が豊かになり、いろいろな考え方をすることができる。知識が増えると言います。読書は良いことばかりで、私は読書の素晴らしさに気づくのが遅かったけれど、中学時代にあの本に出会い、読書を好きになって良かったと思います。



— 東野圭吾の『探偵ガリレオ』を読んで —

理学療法専攻1年：早房由季恵

私が紹介したい小説は、東野圭吾さんのガリレオシリーズです。

シリーズの作者である東野圭吾さんはこのシリーズの『容疑者Xの献身』という作品で、初めて直木賞を受賞しました。さらに、ガリレオシリーズの第1弾である『探偵ガリレオ』は、福山雅治主演でテレビドラマ化された『ガリレオ』の原作です。私は、このテレビドラマでこの作品の事を知りました。

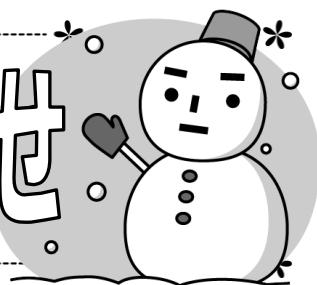
物語は、警視庁捜査一課に所属する刑事の草薙俊平は最近起きた奇妙な事件に頭を悩ま

せており、そこで、それらを科学的に解明するために大学時代の友人であり、現帝都大学物理学部助教授の湯川学に捜査協力を頼みに来るというところから始まっていきます。そして、湯川先生は奇妙な難事件を科学の力を駆使し、事件を解決していきます。

私がガリレオシリーズで好きなのは『容疑者Xの献身』です。この作品は、映画化もされた作品なので本と映画両方みるのをおすすめします。是非、読んでみてください。



図書館からのお知らせ



★ 2012年3月 ★

アイシン エイ・ダブリュ 株式会社様より、
図書購入費の寄附をいただきました！

— 購入図書 —

『戦後日本ソーシャルワーク基本文献集』

『社会福祉施設史資料集成』



元気21キャンパスでも 電子資料が使えるようになりました！

学部化に伴い、今年度後期から元気21キャンパスでもグローバルIPアドレスを取得し、
キャンパス内のPCから自由に電子資料にアクセス出来るようになりました！

図書館のHP (<http://www.shoken-gakuen.ac.jp/library/>) 内の【情報検索ポータル】に

各電子資料(ジャーナル/データベース等)へのリンクが貼ってありますので、

是非アクセスしてみてください！

編集後記

図書館報第19号をお届けします。

今年はりハビリテーション学部の開学に伴い、専門学校図書室が前橋プラザ分館に生まれ変わりました！

まだまだ小さな分館ではありますが、徐々に電子資料も充実してきたように思われます。分館としての課題も若干残っておりますが、これからは藤岡分館と同様に前橋プラザ分館も本館との連携を図りながら、学生サービスの充実を目指して頑張っていきたいと思っております。

最後に図書館報の発行にあたり、お忙しい中原稿の執筆をいただいた方々に心より感謝申し上げます。

(図書館)